

第764図 古墳時代の土鈴分布状況

第3節 土鈴について

1 出土土鈴の分布

以下、H-37号住居で出土した須恵製土鈴について若干の検討を試みたいと思う。

群馬県内の出土土鈴は破片を含め6遺跡7例を数える（第765図）。このうち土師質の後田遺跡（1）、白倉下原遺跡、多胡蛇黒遺跡（2）、松葉慈学寺遺跡（4）例と須恵質の本遺跡（3）例の5例は古墳時代後期、須恵質の末沢窯跡と多湖蛇黒遺跡（5）の2例は律令期のものである。また、その分布を見ると後田遺跡が県北に在る以外は県南部の鏑川流域、特に多湖郡成立以前の甘楽郡推定域に集中的に見られる。

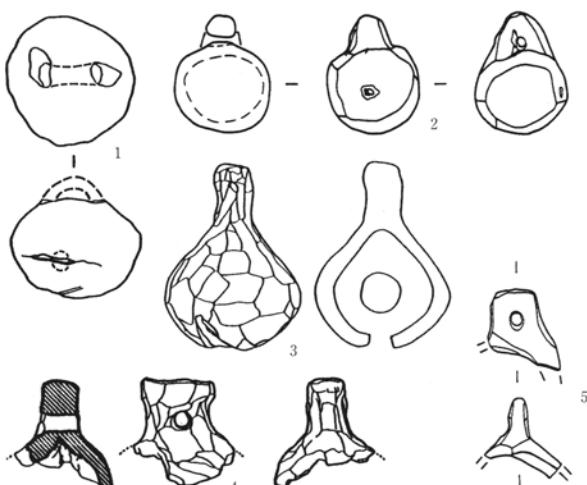
全国的に見ると本遺跡例と同じ古墳時代の土鈴の分布は第764図に示したように広域に見られるが、出土例は27例（国生1992、島谷1992、茨城県立歴史館1995）と少なく、土師質のものが多く、須恵質のものはそれを中心とする畿内と群馬県に見られる。尚、時期的には中期のものは東京都の中田遺跡の1例がある程度で、後期のものを中心としている。

2 群馬県出土土鈴の形態

古墳時代以降の土鈴は概ね銅鈴を模したような形態で鰐口形の鈴口を底面に有し、小玉は1～2個、

鉢は小孔を伴う三角形か方形の板状のものが多い。

本県出土例では後田遺跡例が橢円形、白倉下原遺跡例が鬼胡桃形の輪郭を見せる他は銅鈴様である。本体の残るものでは白倉下原遺跡例は無口で小玉が4個、多胡蛇黒遺跡例（2）の鈴口は点状の小孔で小玉が2個入り、後田遺跡例では非常に薄い鈴口を体部側面に持つて小玉2個の入ることを軟X線写真等で確認している。尚、鉢については本遺跡例が棒状



第765図 群馬県内出土の土鈴(1：後田遺跡 2・5：多胡蛇黒遺跡 3：多比良追部野遺跡 4：末沢窯跡)

第5章 まとめ

で、後田遺跡例は紐状を呈していて特徴的である。

3 小結

以上の点と観察所見から、H-37号住居出土土鈴は古墳時代後期に県内では出土土鈴の多い多胡郡成立

前の旧甘楽郡域の窯で作製されたものと想定され、当該期では畿内以外で唯一の須恵製の製品である。また、本県の該期の土鈴が鈴口や小玉の数に縄文的要素を残すものがある中、銅鈴的形態をとる古墳時代以降的な特徴を示す土鈴ということができよう。

[註]

- (1) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『後田遺跡II』 1988 500,728頁
- (2) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『多胡蛇黒遺跡』 1993 151~152,267,269頁
- (3) 整理中。木村収氏の御教示による。
- (4) 山部考古学研究所『天神遺跡 天神遺跡 西原遺跡 松葉慈学寺遺跡』 1994 265,268頁
- (5) 国生尚『土鈴集成』「岩手考古学 第4号」 1992 (岩手県考古学会) 40,43頁
- (6) 前掲 註(5)に同じ。 27~44頁
- (7) 鳩谷和彦『1.中茶屋遺跡発掘調査概要報告』「堺市文化財調査概要報告第35集」 1993 (堺市教育委員会) 10,15頁
- (8) 茨城県立歴史館『音の考古学』 1995 尚、栃木県清六(3)遺跡例については麻生尚子氏より別途御教示を賜った。

おわりに

以上述べてきたように、古墳時代後期を中心とする複合遺跡であった多比良追部野遺跡に於ける発掘調査は多大なデータと成果を提供してくれたのである。残念乍ら筆者の能力の無さから充分なまとめを行うことができずに稿を閉じることになってしまったが、本書にはその調査データを可能な範囲で掲載したつもりであり、また一般県民の利用を念頭に個々の遺構に対する所見もできるだけ記してきたつもりである。少なくも本書に掲載されたデータは今後大いに活用されるものと信じている。

着手以来5年余りの歳月をかけて実施された発掘調査・整理作業も終わりの時を迎え、ようやくここに報告書原稿を整える事ができた。今後、本報告書が有効に活用されることを願うものであるが、最後に発掘調査や整理作業にご協力賜った関係機関や個人、特に発掘調査の折りに様々なご便宜を賜った地元の方々、そしてみごとなチームワークで數々の困難を克服し、調査・整理担当を盛り上げて下さった発掘作業員諸氏や整理補助員諸氏に感謝申し上げ、ワードプロセッサの電源を落としたいと思う…*

[主要参考文献]

- 尾崎喜左雄『入野遺跡』 1962 (吉井町教育委員会)
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『矢田遺跡V』 1994
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『神保下條遺跡』 1992
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
『多比良平野遺跡 根岸遺跡』 1994
斎藤忠『日本考古学用語辞典』 1992 (学生社)
多野郡教育會『多野郡誌』 明治43年
土井義夫『関東地方における住居址出土の鉄製農具』
『物質文化18』 1971
日本国政府『官報』 1957,1963,1966,1972,1978
日本道路公団東京第2建設局
『上信越自動車道工事誌 翔る』 1994
原田昌幸『燃糸文系土器様式』 1991 (ニューサイエンス社)
万国貨幣洋行『東洋古錢価格図譜』 1971
吉井町教育委員会『東沢遺跡 折茂遺跡』 1987
吉井吉井町教育委員会『新堀城址』
町教育委員会『新堀城址』 1992



スナップ(平成2年2月22日午後2時22分撮影)